
コスモスのある時計台

佐乃海テル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コスモスのある時計台

【Nコード】

N9157A

【作者名】

佐乃海テル

【あらすじ】

この国では時計台の前の入り口の前の大きな岩にコスモスを置く
と願いが叶うと言われている。今日もまた一人時計台へ足を運ぶ人
がいた……。

（前書き）

共通テーマ「時計」という条件のもとで書いた、9月童話企画の私の作品です。「九月の童話」で検索をすると、他の先生方の素晴らしい作品も読めます。

ある国に小さな小さな時計台がありました。時計台の階段の入り口には岩があります。そこにはいつもコスモスの花が、一本ずつ置かれていきます。毎日誰かしらがコスモスを持って、その岩にのせてお祈りをしたあと帰っていきます。秋の日にこの岩の上にコスモスを置いて祈ると、願いが叶うとこの国では信じられているのです。

ある日、小さな男の子が悲しそうに歩いていきました。男の子のお母さんは病弱で、お父さんは元からいませんでした。男の子はお母さんと二人暮らしをしているのですが、その日またお母さんが寝込んでしまったのです。普段優しくしてくれているお母さんが苦しんでいるところを見ると、男の子も辛い気持ちになります。ようやくお母さんが寝静まったので、男の子は何日かぶりに外に散歩に出たのです。

でも、男の子の気は晴れません。病気が再発するたびにこんな辛い気持ちにならなきゃいけないのかな、と思うばかり。すると男の子は道端にコスモスが細々と咲いているのを見つけました。

そういえば、と思い返しました。昔男の子のおばあちゃんは言っていました。秋の日に時計台の入り口の前の岩にコスモスを一本置いて、一生懸命祈れば願いを叶えてくれるって。男の子は半分だまされるようにコスモスを摘んで、時計台へ向かいました。

時計台に着いた男の子は言われたとおりに祈りました。お母さんが病気に苦しみませんように、そして普通のお母さんと同じように過ごせるように、と。男の子なりに一生懸命祈ると、家へ帰っていききました。

男の子はその後、お母さんと笑いながら時計台の前を通る機会がありました。お母さんの病気はあれからというものの不思議なことに再発することはなく、男の子とお母さんはそれからも助け合って暮らすようになりました。

男の子は時計台の入り口の前の岩を通ったところで小さく「ありがとう」とつぶやきました。

時計台には聞こえたのでしょうか。

#

ある日小さな女の子は時計台へ向かいました。お父さんが、国の戦争で兵隊になることになってしまい、今日はその日だったのです。

女の子とお父さんは戦争が嫌いでした。お互い血を流し合っても得るものはない。むしろお互い汗を流し合うほうがいいと昔からお父さんは、女の子に言っていました。それなのにお父さんは兵隊になることになりました。逆らったらお父さんは殺されてしまいます。だから仕方が無い、と。生活するための少しくらいのお金は国からもらえるのですが、女の子のお母さんはとっくの昔に亡くなってい

ます。一人で暮らすことなどできません。途方にくれた女の子は昔お父さんとよく行った、時計台に向かったのです。

時計台に向かう道の途中、コスモス畑がありました。女の子はその綺麗な花に見とれてしまいました。それほど綺麗だったのです。

すると花畑の中で作業をしていたおじさんが女の子を見ると、女の子の方にやってきました。

「どうだい、綺麗だろう。一本あげようか」

おじさんは優しく笑いかけてくれました。女の子は小さくうん、とうなずくとおじさんからコスモスの花を受け取りました。

「お嬢ちゃん、顔色がすぐれないね。何か悲しいことでもあったのかな。だったら時計台の入り口にでもそのコスモスを置いてお祈りしてきたらどうだい。この国ではコスモスは大事にされているからね」

そういうと、おじさんはまた花畑の中へ戻っていつてしまいました。

コスモスの話は女の子もお父さんからよく聞きました。女の子はそれを信じていませんでした。でもこんな気持ちの今、女の子の慰めには十分だったのです。そしてコスモスと一緒に、時計台に向かいました。

昔お父さんから聞いたように、時計台の入り口の前の岩にコスモスを置いて祈りました。一生懸命祈ったあと、女の子が立ち上がるうとしました。

「リル！」

女の子の名前を呼ぶのは……兵隊から帰ってきた女の子のお父さんでした。お父さんは傷一つ負っていませんでした。ああ、時計台の話は本当だったんだと女の子は実感しました。

不思議なことにお父さんが兵隊の宿営所へ向かうと、既に戦争が国同士の話し合いで終わってしまっていたというのです。

それからは戦争が起こることがありませんでした。お父さんと女の子はそれから一緒に暮らし、また時計台に来ることもたまにありました。

そんな時女の子は時計台の入り口の前の岩を通ったところで小さく「ありがとうございます」とつぶやきました。

時計台には聞こえたのでしょうか。

#

その少女は走ってくるなり、時計台の入り口の前の岩にぶつきらばうにコスモスを置いて祈り始めました。年は16くらいでしょうか。少女は他の人たちよりも行動はぶつきらばうでしたが、願いは誰よりも切実でした。

少女はヘルエという好きな少年がいて、その少年にまた別の好きな子がいるという噂を、学校で聞いてしまったのです。ヘルエは「待ってくれ」と懸命に少女を追いかけてきましたが、少女は聞く耳を持たず急いで家に帰ると、泣いて走りながらコスモスを持って時

計台に向かったのです。

「（お願い！ ヘルエと一緒に結ばれますように！）」

誰よりも行動はぶっきらぼうな少女。でも祈る姿は誰よりも一生懸命でした。その時です。

「ルノ、やっと見つけたよ」

頭の上から、声がしました。ルノは少女の名前です。見上げるとそこにはヘルエがいました。

「驚いたよ、話を聞かないで走って行っちゃうんだもん。どうしたんだい」

それを聞いて少女は少しすまないな、と思いました。少女は涙をぬぐいながらも、ヘルエが好きであることを伝えます。すると、

「嬉しいよ」

と言ってくれました。それを聞いて、少女は家へと帰ろうと立ち上がり、歩き出します。

「僕も君が好きだったんだ。だから本当に嬉しいよ」

ヘルエがその言葉を言い終わる頃には、少女は振り返ってヘルエに抱きついていました。少女の目からまた別の、涙が出てきました。

#

「お母さん、お昼ご飯まだ？」

男の子がお母さんをせかします。

「待って、もうすぐよ」

そういうと、男の子のお母さんは男の子の好物のオムライスを持ってきました。

「わあ！ オムライスだ！ いただきます！」

男の子は勢いよくオムライスを食べます。そしてあっという間に食べ終わりました。

「ねえお母さん、これ友達から聞いた話んだけど時計台の入り口の前のあの大きな岩に、コスモスを置いてお願いすると、願いが叶うって本当？」

「そうね」

何かを考えた後、お母さんは答えます。

「本当かどうかはわからないわ。ただ信じるか信じないかだけよ」

「お母さんは信じてるの？ あんなの嘘っぱちだい」

「信じてるわよ。あの時計台にはいろんなお話があるのよ。お母さんの病気が治つたり、お父さんが兵隊から帰ってきたり、あと……」

「あと？」

少し間を置いて、

「お母さんみたいに好きな人と、結ばれたりね」

「え？ お母さん、お父さんが好きだったの？」

「もう、おつかしいわね、当たり前でしょ？ だから時計台でお願いしなかったら、あなたは生まれてこなかったかもしれないのよ」

「本当？　すごいなあ」

男の子は午後時計台へと散歩に向かいました。

時計台の入り口の前の岩の上には今日もコスモスが一本置かれています。

男の子は時計台を見て何となく嬉しくなり、小さく「ありがとう」とつぶやきました。

時計台には聞こえたのでしょうか。

（後書き）

ご読了ありがとうございました。いかがでしたでしょうか。

特に凝った内容になかったため、ありきたりだったと思います。
今回の童話企画は自分が昔絵本で読んだシンデレラなどのお話の雰
囲気をモデルに書いたためです。

これから10月、11月と童話企画は違うテーマで続きます。また
その時には別のモデルで童話を書いているかもしれません。その時
にもまた見守ってくださいると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9157a/>

コスモスのある時計台

2010年10月11日21時25分発行